

インターバンクの声（2014年10月20日）

先週はリスク回避の動きが目立った1週間であった。エボラ出血熱の広がりが不安視される中、これまで堅調な景気回復を示していた米国でも、小売売上高等の一部の経済指標が弱かったことを受け、リスクオフが一段と進んだ。債券市場では、米10年債の利回りが一時、1.86%まで下落し、商品市場では、NY原油先物が80ドル割り込み、為替市場ではドル円が一時105.20レベルまで下落した。日経平均も1万4,500円台で週の取引を終えており、1週間で約800円の大幅安となった。17日(金)米ダウは持ち直しているものの、予断を許さない状態にある。ただ、IMMのポジションを見ると、米ドルが反落する中でも、米ドルロングの拡大が継続し、99年以降で最大に膨らんでいる。やはり、まだまだ米ドルを買いたいとみる向きは依然として多いようである。今週は、中国GDPの他、米主要企業でも決算発表が続く。市場には緊張したムードがいましばらく続きそうである。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。